

第3学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月5日（金）3校時

児 童 3年4組 男16名 女14名 計30名

指導者 神尾 大介

1 主題名 あきらめない心

2 教材名 すきなことから 高橋尚子物語

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の内容項目A－(5)「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」となっている。自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養おうとするものである。これは、第1学年及び第2学年の内容項目「自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。」を受けたものであり、さらに第5学年及び第6学年では「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」に発展していく。

自分でやろうと決めた目標を頑張ってやり遂げたとき、充実感や喜び、自信となり、これからの活動意欲につながる。自分の好きなことに対して決めたことなら、なおさらである。

この時期の児童は、自分の好きなことに対しては、自ら目標を立て、継続して取り組むようになり、計画的に努力する構えも身に付いていく。しかし、辛いことや苦しいことがあると、楽な方に逃げたくなり、途中で諦めてしまうこともある。自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜くことで、よりよい自分の生き方につながることに気付かせることが大切である。

(2) 児童の実態

(略)

(3) 教材について

本教材は、シドニーオリンピックで金メダルをとった高橋尚子選手が、ゴール直前の攻防の中で想起した小学生時代のマラソン大会を追うことを通して、ねらいに迫るものである。

小学生の時のマラソン大会で、靴が脱げたり、つまずいて転んだりしてみんなに追い越されながらも諦めずに走り抜き、トップでゴールした。そしてオリンピック当日、「絶対に大丈夫。」と自分に言い聞かせながら、練習してきた自信と何より走ることが好きという気持ちでゴールする高橋選手の姿が描かれている。

本教材を通して、目標に向かって諦めずに粘り強く努力することが喜びや自信につながることを感じ取らせることのできる教材である。

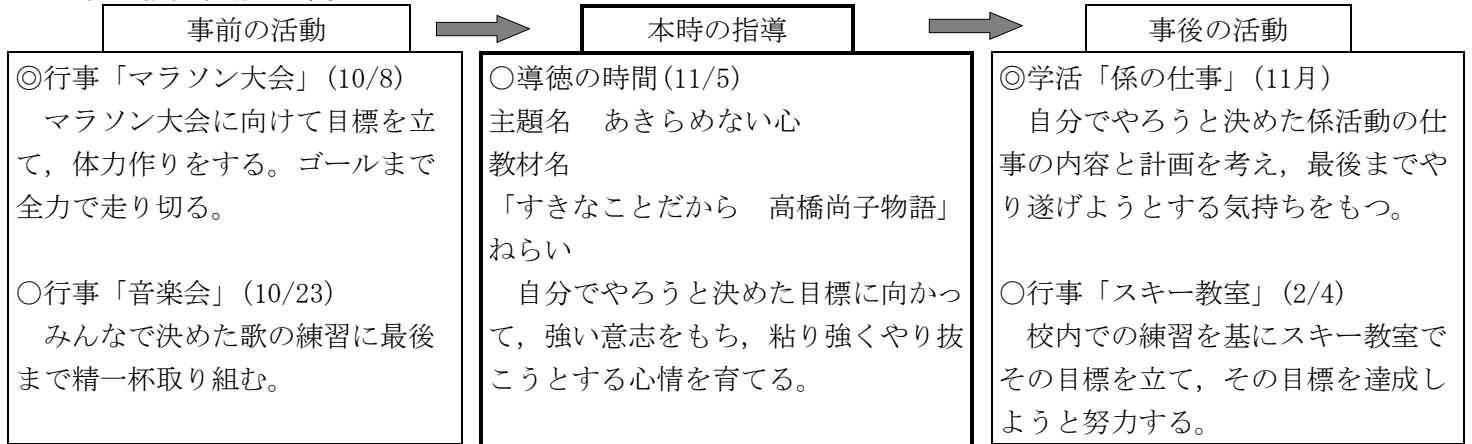
(4) 指導について

「導入」では事前に途中で諦めてしまった経験やその時の気持ちについてのアンケート結果を基に、日常生活や行事や学年の取組などに対しての現在の自分を見つめさせ、自分の思いや願いと教材の価値とがつながるようにする。

「展開」では、場面ごとに写真や挿絵を使いながら、高橋選手の気持ちを中心に話し合いを進めていく。主人公の辛くて途中で投げ出したくなる気持ちを共感させるために、自分たちのマラソン大会の写真を見ることで、自分たちの体験と重ねながら考えられるようにする。また、主発問に対しては、今までの高橋選手の状況や気持ちを整理した上で、一人一人が自分の考えをもちながら、考えを深めていく。さらに、主人公が追い越されて2位だったときの気持ちを全体に問いかけ、ペアで交流し考えさせることで、結果の有無だけで価値を見出すのではなく、そこまで諦めないで取り組めたことへの充実感や喜びに浸らせ、続けることの大切さにも気付かせるようにする。

「終末」では、もう一度自分で決めた目標についてどうしていきたいのかを問うことで、再度今の自分を見つめさせながら、これからの自分のよりよい生き方につなげられるように振り返らせ、活動意欲につなげる。

4 他の教育活動との関連



5 本時の指導

(1) ねらい

自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜こうとする心情を育てる。

(道徳的心情)

(2) 展開

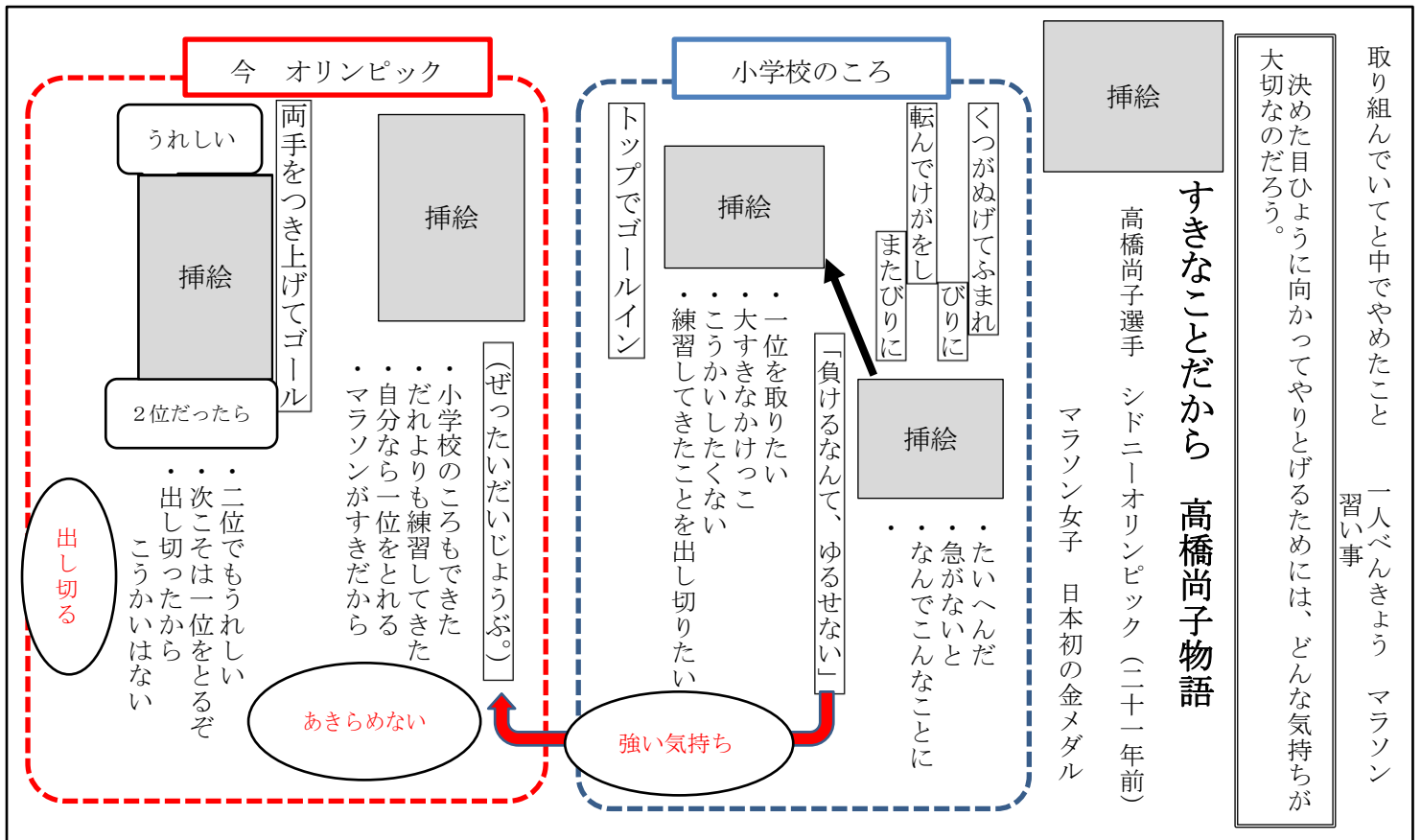
段落	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	●指導上の留意点
導入5分	1 辛くて途中でやめてしまった経験について話し合う。 ○ 自分がいつも取り組んでいたことを途中でやめたことにどんなことがありますか。	現在の自分を見つめる ・宿題で丁寧に漢字練習を書こうとしたけど、毎日続けることができない。 ・マラソンで速く走りたいと思って練習し始めたけど、疲れて練習を止めてしまった。	・事前に途中で諦めてしまった経験やその時の気持ちについてアンケートを取り、学級の実態を確認しながら、価値への導入を図る。 ・心の弱さに負けてしまった自己の価値意識を想起させる。
	決めた目標に向かってやり遂げるためには、どんな気持ちが必要なのだろう。		
	2 教材「すきなことから 高橋尚子物語」を読む。		・高橋選手の大まかな経歴を補足説明する。

<p>展開 30分</p>	<p>3 「高橋尚子選手」の気持ちを中心に話し合う。 <小学校の頃 マラソン大会> ○ 靴が脱げたり転んだりしてびりになったとき、どんな気持ちになったでしょう。</p> <p>○ 「負けるなんて許せない。」と思ったのは、どうしてでしょう。</p> <p><現在 オリンピック> ◎ 「絶対に大丈夫。」と、自分に言い聞かせながら走ることができたのはどうしてでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大変だ。急がなくちゃ。 ・もうだめかもしれない。 ・なんで、こんなことが起きるんだ。 ・くやしい。 ・自分の大好きなかけっこだから。 ・後悔したくないから。 ・友達(自分)に負けたくないから。 ・練習してきたことを出し切っていないから。 ・自分なら絶対に1位をとれる(できる)と信じていたから。 ・小学校の時も諦めなかったから、今回も頑張れる。 ・誰よりも練習してきたから。 ・好きなかけっこだから、後悔したくないから。 ・2位だと嬉しくないと思う。 ・悔しい。次こそは1位を取って見せる。 ・諦めなければ、たとえ2位でも嬉しいと思う。 ・2位でも諦めないで頑張ることが大切だと思う。 	<div data-bbox="1085 134 1436 257" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 主人公と自分を重ねる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのマラソン大会や練習を想起させながら、途中で投げ出したくなったり、焦ったりする気持ちに共感させる。 ・苦しい状況にも関わらず、「負けることが許せなかった」根拠を問うことで、高橋選手の好きなことだから諦めずに頑張ってやり抜こうとする強い意志に気付かせる。 ・今まで頑張ってこられたのは、かけっこが好きだという気持ちやそれが自分の目標となっていることに気付かせ、辛くても頑張りが続けることができるということを押さえる。 ・金メダルを取れた喜びを感じさせながらも、もし望む結果が出なくても、そこまで諦めずに取り組めたことへの充実感や価値に浸らせ、続けることの大切さに気付かせる。
<p>終末 10分</p>	<p>4 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める。 ○ 辛くてもやり遂げることに、新しく考えたことやこれからの生活に生かしたいことをふり返りましょう。</p> <div data-bbox="183 1713 566 1814" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 再度現在の自分を見つめる </div> <div data-bbox="183 1848 566 1948" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 自分のこれからの生き方 </div> <p>5 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手にまめができて痛くなったけど、逆上がりができるようになりたいと思って毎日諦めずに練習したらできるようになった。諦めないで練習することは大切だと思った。 ・字を丁寧に書きたいと思っているけど、意識して書くことを続けていなかった。これからは、少しでも意識して、続けることの大変さに負けず頑張りたい。 	<div data-bbox="1093 1400 1476 1500" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> ねらいに迫る考えの共有 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・話合いで学んだ道徳的価値と、今までの自己を見つめ、気付いたことや新しく考えたことなどを書かせながら自己の変容を促す。 ・好きでやろうと決めたことは、最後まで諦めないでやり遂げるという意識を喚起させる。

思考を揺さぶる発問

全体への問い返し→対話
 「本当に嬉しいの？」

(3) 板書計画



6 教材分析

ねらい 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜こうとする心情を育てる。(道徳的心情)

<小学校の頃 マラソン大会>

<現在 オリンピック>

主な場面	かけ出して間もなく片方の靴が脱げて見当たらなくなった。やっと靴を見つけたがびりになった。歯を食いしばって、全力で走ると、今度はつまずいて転んでしまい、またびりになった。	けがをしたが、「負けるなんて、許せない。」と立ち上がって、一生懸命走り、次々と追い抜いてトップでゴールした。	残り200mの地点で、2位のシモン選手が追い上げてきた。全身の力をふりしぼっても、足が思うように動かないが、(大丈夫。絶対に大丈夫。)と自分に言い聞かせ、これまで十分に練習してきた自信と、何よりかけっこが好きという気持ちで走り抜く。	トップでゴールし、両手を突き上げ、ゆっくりと足を止めた。
気付かせたい考え	靴が脱げて踏まれたり、転んで手に砂利が食い込んだりして、順位が悪くても仕方がない状況を明らかにし、途中で投げ出したくなったり、焦ったりする気持ちに共感させる。 焦り 諦め	苦しい状況にも関わらず、高橋選手の好きなことだから諦めずに頑張ってやり抜こうとする強い意志に気付かせる。 強い意志	今まで頑張ってきたのは、かけっこが好きだという気持ちやそれが自分の目標となっていることに気付かせ、辛くても頑張りが続けることができるということを押さえる。 諦めない 粘り強くやり抜く	金メダルを取れた喜びを感じさせながらも、もし望む結果が出なくても、そこまで諦めずに取り組めたことへの充実感や価値に浸らせ、続けることの大切さに気付かせる。 充実感 希望
発問	靴が脱げたり転んだりしてびりになったとき、どんな気持ちになったでしょう。	「負けるなんて許せない。」と思ったのは、どうしてでしょう。	◎「絶対に大丈夫。」と、自分に言い聞かせながら走ることができたのはどうしてでしょう。	もし、結果が2位だったらどう思いますか。
予想される反応	<ul style="list-style-type: none"> 大変だ。急がなくなちゃ。 もうだめかもしれない。 なんで、こんなことが起きるんだ。 くやしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の大好きなかけっこだから。 後悔したくないから。 友達(自分)に負けたくないから。 練習してきたことを出し切っていないから。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なら絶対に1位をとれる(できる)と信じていたから。 小学校の時も諦めなかったから、今回は頑張れる。 誰よりも練習してきたから。 好きなかけっこだから、後悔したくないから。 	<ul style="list-style-type: none"> 2位だと嬉しくないと思う。 悔しい。次こそは1位を取って見せる。 諦めなければ、たとえ2位でも嬉しいと思う。 2位でも諦めないで頑張ることが大切だと思う。